

ひがし

通算第 107 号
2025.4.15 No.23

石川一雄さんご逝去

狭山事件で無罪を訴えてきた石川一雄さん(86歳)が3月11日、入院先の病院で亡くなりました。

袴田さんの無罪が確定し、狭山事件でも、第3次再審請求で、ようやく東京高裁が、国語能力、筆跡、法医学の鑑定、石川さん宅で発見された被害者の万年筆インクについて、鑑定人尋問の採否を4月に判断するかもしれないという矢先のことで大変残念に思います。

石川さんの思いは妻の石川早智子さんが引き継ぎ、第4次再審請求

を4月8日に申し立てました。

狭山事件とは、62年前におきた女子高校生を誘拐し殺害した事件です。警察は身代金引き渡し現場に40人もいたのに犯人を取り逃がしてしまいました。捜査に行きづまった警察は、

付近の被差別部落に見込み捜査を集中し、何ら証拠もないまま石川一雄さんを別件逮捕し、1カ月にわたり取り調べ、うその自白をさせ、一審死刑判決、二審は無期懲役判決が確定しました。1994年に仮出獄をはたします。逮捕以来ずっと無罪を主張してきた石川さんは、「私の手にかかっている『見えない手錠』を一日も早くはずしたい」と訴えていました。

石川さんは被差別部落に生まれ、10歳で奉公に出されました。大家族の子守、靴屋の修繕の手伝い、製茶工場、漬物屋と6年間、懸命に働きました。そのため読み書きはほとんどできませんでした。

死刑判決後、東京拘置所での出会いが光をもたらします。大出学会を出た「看守さん」が字を教えてくれたのです。「本当にやってないのなら字を覚えて助かる道を選べ」と、石川さんは死刑執行におびえながら必死に学んでいきます。

青春を^{へい}堀の中に置き去りし

^{ごびゅう}

^{ただ}

司法の誤謬を今ぞ質さん

石川さん詠んだ歌です